実施日　　平成 30 年６月１日（金）
実施校　　鹿児島市立玉龍高等学校　２年日本史選択者 60 名
支援者　　埋蔵文化財センター文化財主事　　山崎　克之
　　湯場﨑辰巳

１　目　標

教科書の学習内容への理解と定着を図るため，県内で発掘された遺物や遺構資料を補助教材とした多面的な授業を行う。またこれらを実見することで地域の歴史を考察し，史跡・遺跡の文化財としての意義を認識する。

２　実　際

鹿児島における幕末～明治初期の対外政策

過　程	生　徒　の　活　動	時間	センター職員の活動（指導内容）	準備・留意点
導　入	・産業革命がアジアに及ぼした影響を既習事項への発問・返答を通じて，再度認識する。 ・教科書に記述されていない事項も確認し，対外政策の緊急性を認識する。	１０	１　江戸時代後期のアジア情勢 （１）欧米諸国のアジア進出 産業革命による市場経済の伸展 （２）欧米諸国の日本への接近 北海道，江戸湾近海，九州・沖縄への接近	・産業革命後の欧米諸国の対外政策を確認させる ・参考資料の地図を活用して，欧米諸国の日本接近を把握させる。
展　開	・江戸時代後期の幕府の対外政策と薩摩藩の対応を既習事項への発問・返答を通じて確認する。 ・対外政策が転換していく過程を東アジア情勢のなかで捉えていく。 ・幕末の歴史を政治・経済・外交面から概観し，これに連動した薩摩藩の動きを理解する。 ・開国以降の国内の社会状況を概観し，薩英戦争の影響による砲台形式の変化や，火薬製造所の設立・変遷を理解する。 ・併せて関連する遺構について発掘調査結果・絵図・古写真を活用して当時の状況を理解する。	３５	２　幕府・諸藩の動き （１）幕府の対応 （ア）海防政策の具体化 （イ）法令による諸藩への指示 （２）諸藩の対応 モリソン号事件 ３　アヘン戦争と薩摩藩の対外政策 （１）対外危機への政策 （ア）近代化事業の推進 （イ）西洋砲術の採用と海防政策の構築 根占砲台の紹介 （２）開国以降の国内状況 （ア）対外政策転換と条約成立後の社会 （イ）生麦事件と薩英戦争 鹿児島港周辺の薩軍砲台紹介 （ウ）敷根火薬製造所の設立と変遷	・欧米諸国のアジア政策や，事件に対する幕府や薩摩藩の対応・発令については生徒への発問を行い確認していく。 ・生徒が，学習内容の相関性を捉えられるように説明を行う。 ・資料を提示して薩摩藩が行った対策を多面的に考察させる。
まとめ	・薩摩藩の対応から当時の情勢を把握し，併せて文化財を通じて地域の歴史的な位置付けを理解する	５	・本時の学習内容を時系列に概観し，授業内容の定着を図る。併せて，文化財を通じて地域の歴史的な位置付けを伝える。	・通常の学習内容との連続性を意識したまとめを行う。

玉龍高校周辺の史跡・遺跡

～幕末～明治初期の政治・外交問題を中心に～

！　埋蔵文化財を理解するための用語　！

埋蔵文化財・・・土中・水中にある文化財

＊古文書などの文字資料は文献資料

遺　　構・・・人がつくった構築物（土中・水中にある）

例：住居跡，土坑，落とし穴，炉跡，溝跡，砲台跡など

遺　　物・・・人がつくった道具（土中・水中にある）

例：土器，石器，骨角器，鉄器，青銅器，砲弾など

幕末の対外関係と薩摩

１　アヘン戦争による幕府・諸藩の対外政策転換　　＜１８４０年代～　＞

（１）**アヘン戦争（1840～42）**の衝撃

（ア）1841　高島秋帆による西洋式砲術の実演

（イ）1842　清国の敗戦　→　幕府による対外政策の転換　→（１　　）発令

（２）危機対応のための政策（薩摩藩）　⇒＜資料　近代化遺産ものがたり＞

（ア）西欧の科学技術を導入した近代化事業に着手　＝　**集成館**事業の開始

（イ）西洋砲術の採用と海防施設の設置

根占砲台（1847），

天保山砲台（1850），祇園之州砲台（1853），弁天波止砲台，新波止砲台（1854）

２　開国以降の国内状況　　＜１８５０～１８６０年代＞

（１）対外条約締結による国内情勢の変化

1854　日米和親条約　他締結

1858（２　　）他　安政の五カ国条約締結

↓

国内政治・経済の混乱

↓

攘夷の再燃

1862（３　　）

↓

1863　薩英戦争

天保山・祇園之州・新波止・弁天波止等の砲台使用　⇒＜資料２・３・４＞

西田　源左エ門

（２）薩摩藩の軍事力強化策　～アヘン戦争と薩英戦争への対応～

（ア）**集成館事業**の強化

大砲鋳造，軍艦建造，紡績，食品加工，ガラス製造，印刷などの産業の育成

電信，医薬，ガス，福祉などの社会基盤の整備

（イ）**敷根火薬製造所**の設立と変遷　⇒＜資料　近代化遺産ものがたり＞

1863　**滝ノ上火薬製造所**（現鹿児島市）の分局として設置

動力＝水車　　火薬原料＝硫黄島産・霧島産の硫黄

1868　戊辰戦争

敷根で生産された火薬も利用された

1877　（７　　）

明治新政府軍によって破壊される

・現在，石垣や用水路などの遺構が残り，田畑に伴う施設として一部使用されている

・国分高校郷土研究クラブによって調査が行われたこともある（1989 年）